

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
河原医療福祉専門学校		平成7年3月31日	越智 節也		〒790-0014 愛媛県松山市柳井町3丁目3-13 (電話) 089-946-3388		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人河原学園		昭和60年10月21日	河原 成紀		愛媛県松山市一番町一丁目1番地1 (電話) 089-943-5333		
目的	0歳から6歳の、人格形成に最も大切な時期の子ども達に、愛情をもってかわり、子どもの育ちを支える保育の専門職となる人材を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程		こども未来科		平成27年文部科学省告示第13号	0	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
	2年		1710	480	930	270	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
80 人の内数		51 人の内数		6 人の内数	19 人の内数		25 人の内数
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、提出物、出席率等の資料によって総合的に評価する。		
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月23日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	成績評価がすべてC以上。原則として出席率80%未満の者は進級、卒業ができない。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 連絡のない欠席については、教員が学生に連絡し状況確認を行っている。遅刻欠席が目立つ学生へは保護者面談を実施している。			課外活動	■課外活動の種類 お話の会(絵本の読み聞かせ) あそぼうフェスタ(児童館主催のこども向けイベントのボランティア) ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 保育所、幼稚園、認定こども園 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 100% ■その他 0 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	保育士資格、幼稚園教諭2種免許、社会福祉主事任用資格、介護職員初任者研修		
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 8.3% 平成28年4月1日時点にお 在学者 60名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点にお 在学者 55名 (平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 保育への意欲低下による進路変更、及び、鬱傾向により不登校となる。 ■中退防止のための取組 スクールカウンセラーの活用や補習などの学習支援を実施している。						
ホームページ	URL: <a href="http://www.kawahara.ac.jp/">http://www.kawahara.ac.jp/</a>						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

0歳から6歳の、人格形成に最も大切な時期の子ども達に、5領域である「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の側面から適切なねらいを持ってかかわれる人材の育成を目指している。また、ピアノやリトミック、音楽等の実技授業や5回の実習を通し、現場で役立つ知識や技術を習得し、実践力を磨く。そして、子ども達は勿論、保護者・園の先生等全ての人々から必要とされる人材を育成するため、幼稚園や保育園等の現場から意見をいただき、教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

「教育課程編成委員会」は、本校より、校長・教頭・教務課長・学科主任が参加し、地域からは、保育園の園長、保育協議会会長が参加する。学生の就職先である保育園・幼稚園・施設等における人材の専門性に関する動向、保育現場において必要とされる知識・技術・技能などを十分に把握・分析した上で、児童福祉科の教育を施すにふさわしい授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を行う等、保育現場の要請を十分に活かしつつ、保育専門職として実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
合田 史宣	愛媛県保育協議会 会長	1年	①
井手 裕子	社会福祉法人愛媛福祉会 未来夢保育園 園長	1年	③
宮崎 和香	こどもたちの造形遊び アトリエ若 主催	1年	②
越智 節也	河原医療福祉専門学校 校長	1年	
河上 忠司	河原医療福祉専門学校 教頭	1年	
大西 史浩	河原医療福祉専門学校 教務課長	1年	
日野 亜紀	河原医療福祉専門学校 学科主任	1年	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

原則年2回の開催とする。(原則:10月及び3月)

(開催日時)

第1回 平成28年10月27日 14:00～15:30

第2回 平成29年 3月29日 14:00～15:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

保育者として、また社会人としてマナー教育が欠かせないという外部委員からの意見を受けて、28年度よりマナーの授業を取り入れ、更なる人材育成にあたることとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育士・幼稚園教諭養成課程では、保育所・幼稚園・施設等の協力を得て、保育実習や教育実習を行っているところである。その中で、実習園より御指摘・御指導いただいた内容を授業や学生指導に反映させ、より現場が求める人材像に近い学生の養成に努めている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習施設では、園長先生をはじめ、実習担当の先生、担任の先生等から直接指導をしていただいている。教員も実習期間中に実習園を訪問し、実習生が子どもと関わっている様子を見たり、実習指導者から実習の状況を聞き取ったりすることで、学生の実際の様子を把握している。また、実習先からは評価を書面でいただき、学生にその内容をフィードバックして次への課題を見出している。実習において合格点に満たなかった学生については、学校にて指導を行い、再度実習を行わせていただく。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習	保育士資格の取得の為、保育現場(保育所・児童福祉施設)において実際に子ども達と関わり、保育士の仕事を体験することで、生きた保育技術を学び、人間性豊かな人材を養成する。段階を追って実習を行い、それらの目的を認識し、目標達成の為に真剣に取り組み、実習の成果を上げる。	未来保育園・未来夢保育園・生石保育園・石井保育園・道後保育園
教育実習	幼稚園教諭2種免許取得の為、教育現場(幼稚園)において実際に子ども達と関わり、幼稚園教諭の仕事を経験することで、生きた技術を学び、人間性豊かな人材を養成する。段階を追って実習を行い、それらの目的を認識し、目標達成の為に真剣に取り組み、実習の成果を上げる。	東松山幼稚園・梅花幼稚園・花園幼稚園・番町幼稚園・桃山幼稚園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
<p>専門性や教育力の向上を図ることを目的として、様々な研修会に参加し、最新の情報を得るとともに、知識や技術、指導力の向上を図る。</p>	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
<p>○「近畿大学九州短期大学連携校事務連絡会」(主催:近畿大学九州短期大学) 近畿大学九州短期大学の連携校が集まり、実習や学生指導等についての情報交換・意見交換を行う。</p>	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
<p>○「サマースクール四国大会」(主催:日本幼年教育研究会) 保育現場における発表会・歌遊び・体操等の実技講習を受ける。 ○「おもちゃインストラクター養成講座」(主催:日本グッド・トイ委員会) おもちゃを使った遊びの展開についての講座を受講。</p>	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
<p>○「近畿大学九州短期大学連携校事務連絡会」(主催:近畿大学九州短期大学) 近畿大学九州短期大学の連携校が集まり、実習や学生指導等についての情報交換・意見交換を行う。 ○「近畿大学九州短期大学連携校研修会」(主催:トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校) 近畿大学九州短期大学の連携校が集まり、実習や学生指導等についての情報交換・意見交換を行ったり、講演会を聴いたりする。</p>	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
<p>○「サマースクール四国大会」(主催:日本幼年教育研究会) 保育現場における発表会・歌遊び・体操等の実技講習を受ける。 ○「おもちゃインストラクターフォローアップ研修」(主催:日本グッド・トイ委員会) おもちゃを使った遊びの展開についての講座を受講。</p>	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
<p>「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえ、学校の教育活動その他の学校運営状況について、学校自ら行う「自己評価」はもとより、在校生の保護者、卒業生、有識者、企業などの役職員が学校関係者として評価に参画し、自己評価の結果を評価することを基本として行う。評価結果は、すみやかに公表し、教育活動その他の学校運営の改善に取り組む。</p>	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的
(2) 学校運営	組織・管理運営
(3) 教育活動	教育
(4) 学修成果	基本指標
(5) 学生支援	就職指導、学生支援
(6) 教育環境	設置基準項目(施設設備等に関する事項)
(7) 学生の受入れ募集	学生の受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	設置基準項目、組織・管理運営(法令順守)
(10) 社会貢献・地域貢献	学校教育以外の諸活動
(11) 国際交流	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3) 学校関係者評価結果の活用状況	
<p>就職先からの意見として、具体的な表現力(ピアノ・創作活動など)のスキルアップを求められたことから、ピアルレッスンの指導方法や現場において創作活動の発表の機会を設ける等、実践力の向上を図るための教育の検討を行う。</p>	

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松岡 さおり	こども未来科在校生保護者	1年	保護者
日野 佳奈子	介護福祉科在校生保護者	1年	保護者
井上 勝史	メディカルアース合同会社 代表	1年	卒業生
小笠原 容子	介護老人保健施設 幸富久荘	1年	就職先企業担当者
谷本 賢治	松山東雲高等学校 校長	1年	高校教員
高石 宏行	ひろ鍼灸接骨院 院長	1年	地域の有識者
渦尻 敬治郎	社会福祉法人 三善会 理事長	1年	教育課程編成委員
太田 多佳子	愛媛県医療ソーシャルワーカー協会 会長	1年	教育課程編成委員
井手 裕子	社会福祉法人 愛媛福祉会 未来夢保育園 園長	1年	教育課程編成委員
増田 和男	松山大学 講師	1年	教育課程編成委員
石川 和男	松山東雲女子大学 名誉教授	1年	教育課程編成委員
越智 節也	河原医療福祉専門学校 校長	1年	委員長
田邊 健三	河原医療福祉専門学校 教頭	1年	副委員長
河上 忠司	河原医療福祉専門学校 教頭	1年	副委員長
村田 崇司	河原医療福祉専門学校 教務部長	1年	学内委員
鈴 武利	河原医療福祉専門学校 教務課長	1年	学内委員
大西 史浩	河原医療福祉専門学校 教務課長	1年	学内委員
伊藤 健二	河原医療福祉専門学校 学生課課長	1年	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) 2017年1月25日)

URL:<http://www.kawahara.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

高度な職業教育への研鑽を組織的、継続的に推進するためには、組織的、継続的な企業連携が必須とわれわれは考えている。その連携を有意義なものとするためには、企業にとって、学校の教育人材目標やその現状が体制として見えやすいものになっていなければならない。教育課程編成会議、学校関係者評価会議などの会議規程の透明性や開放性はもとより、自己点検評価の各指標全体が検証可能な透明性や開放性を持つことが、そのためにも必須である。その方針の下、われわれは以下の連携指標をもつこととする。

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的、沿革、組織・管理運営、設置基準項目(施設設備等)
(2) 各学科等の教育	基本指標、教育、設置基準項目(学生に関する事項)、設置基準項目
(3) 教職員	設置基準項目(教員等に関する事項)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動以外の諸活動
(6) 学生の生活支援	学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	設置基準項目(財務に関する事項)、学生の受け入れ
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価結果公開資料
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3) 情報提供方法

URL:<http://www.kawahara.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程 こども未来科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			日本国憲法	日本国憲法全体の主要事項の意味内容を体系的に理解しながら、そこで取り上げられる政治的・憲法的課題について自ら考える学習を行う。	1	30	2	○			○			○		
○			英会話 I	日常的で平易な会話文を学びながら英語表現、イディオムや文法を習得する。また、実際に基本文型のパターンを応用して、コミュニケーションの手段として実践力を身につける。これらのことを学ぶことで、英語表現力の養成を目指す。	1	30	2		○		○				○	
○			健康科学	「高齢化社会」「余暇社会」などと呼ばれている昨今において、社会の問題や課題に対してスポーツの意義や機能を考え、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎知識・技術を身につける。	1	15	1	○			○				○	
○			生涯スポーツ	スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎知識、技術を習得することに加え、「誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを」という生涯スポーツの理念の実現に向けた学びを行う。	1	30	1			○		○			○	
○			情報処理入門 I	パソコンの利活用能力は、保育の職に就く学生にも要求される。よって、ウェブブラウザや電子メールソフトウェアの操作を通し、インターネットの基礎的な利用方法を習得するとともに、ワードやエクセルの基本的な扱い方を演習を通して習得する。	1	45	3		○		○				○	
○			国語	基本的な会話表現や文章表現のルールを理解し、言葉を用いて豊かに表現したり、理解したりする力を身につける。	2	30	2		○		○				○	
○			保育原理	保育の歴史や様々な教育者の考えに触れ、保育や子どもについての幅広い知識を持つことによって、一方向だけから物事を見るのではなく、様々な観点から保育や子どもについて考える	2	30	2	○			○			○		
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
■全ての履修科目の成績評価がC以上、出席率が80%以上。	1学年の学期区分	2期
■必修科目・選択必修科目・学校独自科目(選択①)又は、必修科目・選択必修科目・学校独自科目(選択②)を履修する。	1学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程 こども未来科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			教育原理	教育の意義を理解し教育に関する基礎的な概念と知識の習得を図る。教育問題を幅広い視点で捉える。	1	30	2	○			○		○			
○			児童家庭福祉	望ましい保育者となるために、児童家庭福祉の基本的、本質的な事柄の理解を深めるとともに、それに関連する幅広い知識・情報を得る	2	30	2	○			○				○	
○			社会福祉	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解し、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系について理解し、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。	1	30	2	○			○				○	
○			相談援助	社会福祉の専門職として、保育に必要な相談援助の理論と方法を、ソーシャルワークの歴史的発展を基に、その応用と事例分析を通して理解を深める。	2	15	1		○		○			○		
○			社会的養護	児童の最善の利益を一番に考えられる人材を育成する。また、個々の児童の状況を的確に把握し、その児童の内的力を十分に発揮させ、親子ともに自立出来るようにサポートの出来る人材を育成する。	1	30	2	○			○			○		
○			保育者・教職論	保育者は専門職として社会的に責任のある職業である。その為、保育者の仕事について正しく理解し、保育者としてどうあるべきかを考え実践できるようにする。	1	30	2	○			○				○	
○			発達心理学	発達心理学の基礎を習得し、多面的な機能を持つ心の理解を深め、事例を用いたグループディスカッションを取り入れ、心理臨床的な発達の理論と技能の習得を目指す。	2	30	2	○			○			○		
○			教育心理学	子どもたちの心身にどのような変化が生じるのかといった理解を深め、子どもと関わる専門家としてとして求められる教育心理学の知識を身につけることを目的とする。	1	30	2		○		○			○		
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>■</b> 全ての履修科目の成績評価がC以上、出席率が80%以上。 <b>■</b> 必修科目・選択必修科目・学校独自科目（選択①）又は、必修科目・選択必修科目・学校独自科目（選択②）を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程 こども未来科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			子どもの保健Ⅰ	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学び、身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。これらを踏まえて、子どもの疾病の予防法と適切な対応について学ぶ。	1	60	4	○			○			○		
○			子どもの保健Ⅱ	こどもの保健Ⅰを踏まえて、子どもの精神保健とその課題等を理解する。そして、保育における環境及び衛生管理、安全管理を理解し、施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。	2	15	1		○		○				○	
○			子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。また、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解し、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。	2	30	2		○		○				○	
○			家庭支援論	現在の家庭を取り巻く社会的状況と今日における家族生活を理解し、「子育て支援」の社会的役割と家族との関わりを学ぶ。	2	30	2	○			○				○	
○			保育・教育課程論	教育課程や指導計画の基礎的な考え方を理解する。そして、教育（保育）の目的や目標を達成するための保育内容をこどもの発達に応じて編成・計画が出来るようにする。	1	30	2	○			○				○	
○			保育内容総論	領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるようにする。	1	15	1		○		○				○	
○			健康(指導法)	「子どもの健康」や「子どもの運動遊び」を様々な社会的要因との関係から分析しながら、子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それらにかかわる環境について理解を深め、子どもの健康に必要な指導・援助の技術・技能を獲得する。	1	15	1		○		○				○	
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>■</b> 全ての履修科目の成績評価がC以上、出席率が80%以上。 <b>■</b> 必修科目・選択必修科目・学校独自科目（選択①）又は、必修科目・選択必修科目・学校独自科目（選択②）を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程 こども未来科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間関係(指導法)	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。また、子どもが単に集団にうまく適応することのみを問題にするのではなく、他者理解を通して人の豊かなかかわりを経験することの意義を学び、人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。	1	15	1	○			○				
○			環境(指導法)	子どもにとっての環境とは、物的環境・人間環境・自然環境など様々あり、それらが相互に子どもの育ちにかかわっている。「環境を通して教育を行う」ことの意味を正しく理解し、保育現場で子どもにとってふさわしい環境を整えられる保育者の育成を目指す。	1	15	1	○			○				
○			言葉(指導法)	人間にとっての言葉の役割や機能、言語獲得の過程を学ぶとともに、子どもの言葉を育む適切な言語環境についても理解し、保育者として適切に子どもの言葉の育ちが援助できることを目的とする。	1	15	1	○			○				
○			音楽表現(指導法)	子どもの持つ豊かな感性や、表現力を引き出すための指導法・援助法を体得すること、自分自身の身体を認識し、身体運動による表現の特質を知り、イメージと動きのかかわりを体得し、創造性を豊かにすることを目標とする。	1	30	2	○			○			○	
○			造形表現(指導法)	子どもの自発的表現力を高め、豊かな感性を育てるために、保育者自身が自然や周りの身近な環境とかかわりあって、自然物を使って自由な発想で造形活動を楽しめる感性を育てる。具体的にはマブリングやデカルコマニー、玉吹き絵など平面表現のさまざまな方法を取得し、表現技術を高める。	1	30	2	○			○			○	
○			乳児保育	乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割などについて学び、3歳未満児の発育・発達を理解し、健やかな成長を支える為の保育所や乳児院における乳幼児保育の現状と課題について理解する。	1	30	2	○			○			○	
○			障害児保育	障害児保育を支える理念や歴史の変遷についての理解などを深め、障害児における理解や援助の方法、環境構成などについて学ぶ。また、保護者支援や関係機関との連携についても理解を深める。	2	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>■</b> 全ての履修科目の成績評価がC以上、出席率が80%以上。 <b>■</b> 必修科目・選択必修科目・学校独自科目(選択①)又は、必修科目・選択必修科目・学校独自科目(選択②)を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程 こども未来科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会的養護内容	社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ中で、望ましい保育者となるために、社会的養護の内容（処遇等）に関する基本的な知識および技術について学ぶ。	2	15	1	○			○				
○			保育相談支援	保育士はその専門性を活かして、子育て中の保護者に支援をすることが求められている。保護者を理解し、寄り添い、援助することが出来るよう、保護者支援の意義や基本を知り、保護者支援の方法や技術を学ぶ。	2	15	1	○			○				
○			音楽(理論)	ピアノを弾くためには必須となる楽譜の読み方、記号の意味など基本的なことから学習する。表現に必要な強弱記号の知識や、省略記号を伴う進行の仕方についても解説。楽式についても基本事項に触れ、後半の授業では、音程や音階について基礎的な学習をし、和音について扱う。	1	30	2	○			○				
○			図画工作	造形表現に必要とされる基礎的な理論や技術を学習し、また造形能力や感性を将来にわたって高める。	2	30	2	○			○				
○			図画工作Ⅱ	造形表現に必要とされる基礎的な理論や技術を学習し、また実際の保育現場を想定し、子ども達が造形能力や感性を高められるような指導が出来るよう実践的な部分を学ぶ。	1	15	1	○			○				
○			保育実習Ⅰ	保育現場（保育所・児童福祉施設）において、こどもの理解、保育士の仕事内容の理解、児童福祉施設の役割等の理解を図る。	1.2	180	4				○	○	○		○
○			保育実習指導Ⅰ	保育実習に向けての基礎知識や指導計画の立案、手遊びやピアノなどの保育技術、実習生としてのマナーなどを段階毎に学んでいく。	1.2	45	3	○			○		○		
○			保育・教職実践演習	2年間の学習と実習の成果を振り返りながら、学生自身が保育者に求められる資質と能力が得られているのかを確認する中で、自己の課題を見出し、保育者としての資質と能力の向上につとめる機会とする。	2	30	2	○			○		○		
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
■全ての履修科目の成績評価がC以上、出席率が80%以上。	1学年の学期区分	2期
■必修科目・選択必修科目・学校独自科目（選択①）又は、必修科目・選択必修科目・学校独自科目（選択②）を履修する。	1学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程 こども未来科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		児童文化	児童文化は、大人が子ども達のために作ったり、子ども自身が作ったりしながら、遊びの中で共有され、仲間や次の世代へ伝えられていくものである。この児童文化の重要性を認識し、内容を把握し、自分自身も様々な児童文化に触れ、児童文化の実践的な指導ができるようになることを目指す。	1	30	2	○			○	○			
	○		言葉Ⅱ	子どもの言葉を育てる様々な言語資料について、その必要性及び各言語資料の特徴と正しい扱い方を学ぶ。また、ペープサートやパネルシアターを自分で作成し、実際に演じることで更に学びを深めるとともに実践力を培う。	2	15	1	○			○	○			
	○		子どもと音楽(ピアノ)	幼児教育の現場では、質の高い音楽教育が求められている。その為、バイエルを使用し、ピアノの基礎技術の習得、その後、応用として幼児曲のピアノ伴奏、リズム曲(マーチやギャロップなど)などの実用的な楽曲が段階を追って弾けるようにする。	1.2	90	6		○		○		○		
	○		子どもと音楽(声楽)	発声法をマスターし、豊かな声で自信を持って、表情豊かに歌えるようになる為に基礎(コールユーブンゲン、コンコーネ)を通じて正確な音程やリズムで歌えることを目的とする。また、季節の歌や童謡などが自信を持って歌い、現場で指導が出来るようにしていく。	1.2	90	6		○		○			○	
	○		幼児体育	幼児期の運動遊びを追体験することを通して、保育者として必要な運動遊びのレパートリーを増やし、バリエーションの拡げ方を理解するとともに、運動遊びの指導に必要な保育技術についても身につける。	2	15	1		○			○		○	
	○		幼児体育Ⅱ	子どもの運動発達の順次性や興味・欲求を理解する。その上で、明確な意図を持った保育計画の設定を考察できる力を養う。そして、発達に応じた体育活動・教材・教具の内容やその特性を知り、子どもを主体とした体育の指導・援助を身につけていく。	2	15	1		○		○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
■全ての履修科目の成績評価がC以上、出席率が80%以上。	1学年の学期区分	2期
■必修科目・選択必修科目・学校独自科目(選択①)又は、必修科目・選択必修科目・学校独自科目(選択②)を履修する。	1学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程 こども未来科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		音楽(器楽・声楽)	保育者として、子どもに歌い聴かせうるための声楽の基礎(発声法)を学ぶとともに、基本的な音楽理論を理解する。また、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身につける。	1.2	30	2		○		○			○		
	○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びで得た自己の課題に取り組み、保育者として必要なことを身に付ける。また、総合実習を通し、クラスを運営していく力も養う。	2	90	2			○		○			○	
	○		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰを振り返りながら自らの実習課題を確認し、保育実習Ⅱの事前指導及び実習生としての心構えと準備に必要な知識と実践を学び、保育実習Ⅱに対する課題を明確化にしていく。	2	15	1		○		○		○			
	○		手話	「手話」というコミュニケーションを学び、体験することで、全ての人々に対して豊かな思いを伝えることのできる人材を育成する。そして、保育現場で指導できるように幼児が喜んで参加出来る手話歌やゲームなどの技術を身につける。	1	30	2		○		○				○	
	○		リズム表現	音を集中して聴いたり、歌ったり、楽器を演奏したり。身体全体でリズムを表現したりすることにより、音楽の楽しさや感動を味わい感性を磨く。見たり聞いたり考えたり感じたりしたことを身体全体で自由に表現し、自らが発見・想像・創造する力を培う。	2	30	2		○		○				○	
	○		教育方法論	教育の歴史的変遷から現代の教育を考える。過去に実践されてきた数多くの事例や実践哲学を紹介しながら、現代の教育や保育に携わる者の教育方法論としての基礎的な知識や理論の習得を目指す。	1	30	2	○			○				○	
	○		教育相談	保育の場は多くの子ども達にとって初めて家庭以外での集団生活を経験する場となる。子ども同士での問題や家族への支援も重要な役割となる。その為に必要な、子どもや家族への支援スキルを学ぶ。	2	30	2	○			○				○	
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
■全ての履修科目の成績評価がC以上、出席率が80%以上。	1学年の学期区分	2期
■必修科目・選択必修科目・学校独自科目(選択①)又は、必修科目・選択必修科目・学校独自科目(選択②)を履修する。	1学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程 こども未来科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		卒業研究	卒業製作として、エプロンシアターを作製する。また、作製だけでなく、子ども達に楽しんでもらうためにはどのように演じればいいのかを、これまでの経験を基に考え、工夫して発表をする。	2	30	2		○		○		○		
	○		教育実習	教育現場（幼稚園）において、幼児の理解、幼稚園教諭の仕事内容の理解、幼稚園の機能や役割の理解等を図るとともに、教師として望ましい倫理観や姿勢を身に付ける。	2	160	4			○		○	○		○
	○		教育実習事前事後指導	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努める。	1	15	1			○		○		○	
	○		劇遊び(指導法)	子どもの持つ豊かな感性や表現する力を引き出すための指導・援助法を体得する。	1	15	1			○		○		○	
合計				54 科目					1885	単位時間(106単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>■</b> 全ての履修科目の成績評価がC以上、出席率が80%以上。 <b>■</b> 必修科目・選択必修科目・学校独自科目（選択①）又は、必修科目・選択必修科目・学校独自科目（選択②）を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。